

北広島工場、4月に本格稼働 ユニシス

麻酔針など医療用特殊針を製造するユニシス(東京・台東)は22日、北広島市に建設した新工場を関係者に披露した。同社の道内初の工場で、埼玉に続いて2カ所目の生産拠点となる。4月に本格稼働し、麻酔針の生産能力を年100万本に引き上げる。

総額4・5億円を投じた新工場は鉄骨三階建てで延べ床面積は900平方メートル。当面は麻酔針の針先のみを製造し、埼玉工場で組み立てる。将来は全工程を北海道工場できるようにする計画だ。従業員はパートを含めて約20人。今後も積極的な採用を進める方針。

主力製品のペンシル型麻酔針は無痛分娩手術などに使われ、海外40カ国100社に輸出。世界シェアは30%に上る。竣工式で斎藤英也社長は「北の大地から世界に羽ばたけるよう工場を育てていきたい」と語った。来賓として高橋はるみ知事もお祝いを述べた。